

令和7年度 学校経営方針

小笠原村立小笠原小学校 校長 西村 浩

1 学校経営の基本的な考え

児童の笑顔で始まり、言葉で自分の思いや考えを伝え合い、本気で力を発揮する児童を育むために「ほめて共感して考えさせる」教育をすすめる。児童が小笠原に誇りと自覚をもち、学校、家庭、地域がオール小笠原として、安全で安心な最幸の学校づくり、教育活動の一層の充実を図る。「教育は人なり」を基盤に、すべての教員が教育公務員として「自ら育つ」、「組織の意識」を自覚し、使命感と責任をもって児童の成長を喜び合える学校を創造する。校名と校歌に込められた開校当時の期待や思いを受け、本校教育の特色を具現化し形づくる。

そして小中一貫教育の視点に立ち、学校経営及び運営の推進を図り、義務教育9年間の学びの連続性を踏まえた教育活動、小中学校の教員によるチームティーチングなど教育効果を高める。義務教育期間に、児童の将来につながる基礎を身に付けさせ、夢をもたせたり、可能性を広げたりする教育を積み重ねていく。小笠原ならではのよさを強みにしてどこでも通用する力をもった子供たちを育てる。そして、一人一人の児童のよさや可能性を伸ばすとともに、一人一人の児童が安心できる居場所となる学校を目指し、それが実現できるように歴史と伝統ある小笠原小学校の教育環境や体制をさらに整備・充実させる。そのために、小学校教育で担うべき役割を明確化し、発達段階に応じた意図的・計画的な教育活動を組織的に行う。

児童にとって、「**「やりたい」「知りたい」「学びたい」「伝えたい」があふれる学習**」「**集団の中で自分の存在感や役割感を感じることができる**」「**行事等で達成感や充実感を味わうことができる**」、保護者・地域にとっては「**信頼できる**」「**誇れる**」教職員にとっては「**やりがいのある**」学校を目指し、令和7年度の学校経営方針を定める。そして小笠原小学校に関わる全ての人にとって最幸の学校を創る。

2 教育目標

人権尊重の精神を基盤として、一人一人の児童が、知性、感性、創造性及び社会性を育み、人間性豊かに成長することを目指し、次の教育目標を定める。

○ 自分を大切にし、思いやりの心をもとう ○ 夢や目標を持ち、たえず学び続けよう ○ 心と体を鍛え、爽やかな感動を生もう

3 経営目標

＜目指す学校像＞

笑顔で始まり、言葉で自分の思いや考えを伝え合い、本気で力を発揮する最幸の学校

＜目指す児童像＞

「やりたい」「知りたい」「学びたい」「伝えたい」といった「～したい」があふれる児童

- 柔軟なものの見方・考え方をもち、学び続ける児童【確かな学力】
- 規範意識と思いやりのある児童【豊かな人間性】
- 健康に関心をもち、進んで体を動かす児童【健康・体力】

＜目指す教師像＞

「教職員が児童の成長を自分のことのように喜び合える」豊かな人間性と指導力、情熱をもち、児童の声に傾聴し、共感できる教職員。
※笑顔・あいさつ・チャレンジ・意識の組織→統一感をもった指導

4 学校経営の基本方針

- 「やりたい」「知りたい」「学びたい」「伝えたい」といった「～したい」があふれる、主体的に考え行動する児童を育てる。
- すべての教員が主体者となって学びの好循環を創るようなカリキュラム・マネジメントを行う。

1「確かな学力」の向上 確かな学力を身に付け、自立・協働・できる人を目指して	具体的な方策
○小・中学校教員によるチームティーチング&教科交流 (9年間の学びの連続性：小中一貫教育) ○「やりたい」「知りたい」「学びたい」「伝えたい」があふれる授業。そのための基礎的・基本的な知識や技能の定着と体験活動、タブレット端末の効果的な活用 ○ユニバーサルデザインを活用した授業改善 ○主体的に学ぶ意欲の向上、学習習慣の定着（家庭学習） ○地域を生かした教育活動の充実（小笠原学習） ○千代田区立小学校と母島小学校との学習交流 ○学びの宝庫としての学校図書館利活用 (読書活動の推進、情報センター機能、環境整備)	☆9年間を見通した確かな学力の育成（基礎学力+話す・聞く・読む力） 小学校教員のチームティーチング、中学校教員による授業 等 ☆各教科・領域等で問題解決型の学習・体験的な活動・言語活動の充実 知識や経験を活用して考えたことを広げたり、深めたりする力の育成 ☆児童の学習状況の把握（指導と評価の一体化）、授業改善推進プランの作成・実施・改善、算数少人数指導の充実、個別指導の充実 スキルタイム（わくわくタイム）、ミライシードの活用 本時の目標の明確化（板書・掲示の工夫）学びの過程のデザイン 既習内容の効果的活用 学習の振り返り 児童による授業評価 ☆見通しをもたせる工夫、タブレット端末の効果的な活用、視覚的情報、環境・授業のユニバーサルデザイン化、ニーズに応じた支援（個人差への対応） ☆個別最適な学びの実現のための学習者用端末の効果的活用、プログラミング教育の実践、ICTを活用した授業・協働学習の工夫 ☆学校生活全体を通して、言語に対する認識や関心を高める言語環境の整備 学習での発表の場や形式を工夫した言語活動の充実（思考力・表現力） ☆「家庭学習のすすめ」等の活用を通して家庭学習の習慣化 学習者用端末の家庭での活用 学ぶ楽しさの実感 ☆千代田区立小学校と母島小学校との年間を通した学習交流。小笠原学習の実践、環境教育、ユネスコスクール、歴史や伝統文化の継承・活用・発信 等 ☆朝読書、読書週間の設定 図書館の蔵書とデジタル資料を組み合わせた調べ学習、児童による本の紹介や読書の感想の共有
2「豊かな心」の育成 思いやりの心をもって社会に貢献できる人を目指して	具体的な方策
○互いに認め合い、居心地のよい学級、学校づくり ○生命の大切さ、思いやりの心の育成 ○異学年交流（なかよし班）や地域との交流活動の充実	☆児童と教師の信頼に基づく指導 全職員で児童理解⇒情報の共有 「間違えてもよい」という安心感、自尊感情の育成、活躍の場の設定 ☆豊かな人間性の育成、生命を尊重する心、自他を尊重する心、規範意識、正



○基本的な生活習慣と規範意識の育成 ○差別やいじめを絶対に許さない指導の徹底 ○道徳授業を中心とした全教育活動における心の教育・道徳教育の推進 （道徳科の交換授業） ○人権教育の充実 	義感等の育成 ☆全校行事、意図的・計画的な縦割り交流、集会活動でのプレゼンテーション能力の育成 地域行事への参加、キャリア教育 等 ☆「あいさつ」「返事」「話の聞き方」等のソーシャルスキルの定着 学習規律、あいさつ運動、学校のやくそく、SNSルールの徹底 ☆他者を尊重する態度の育成 いじめに対する毅然とした指導 いじめの未然防止・早期発見・早期対応・解決。そのための心の健康アンケートや学校生活アンケート、SC の活用・全員面接、教育相談的手法の研修・充実⇒学校いじめ防止等対策委員会 ☆他者理解や思いやりの心情等の道徳性を養う指導 道徳的価値の自覚を深める指導、考え・議論する道徳授業、評価の工夫 ☆いじめ防止・人権教育に関する研修の充実（人権教育プログラム活用） 教職員の人権感覚・人権意識の向上、児童の作品を掲示する際の配慮徹底
3「健やかな体」の育成 心身ともに健康で様々なことに挑戦できる人を目指して	具体的な方策
○体力向上の取組（体力テストの結果分析） ○全校外遊びの奨励（月1度のロング昼休み） ○健康な生活習慣の定着（手洗い、うがい、換気等による感染対策の徹底） ○食育の充実（バランスのよい食生活・食事のマナー）、歯と口腔の健康づくりの推進：歯磨き習慣→家庭との連携 ○保健指導の充実と家庭と連携した生活習慣の定着 ○安全教育の推進（生活安全・交通安全・災害安全） 特に災害安全の重視（防災学習・避難訓練） 	☆ねらいが明確な体育の授業、運動量が確保された体育授業 体育的活動や運動の日常化の充実、体力テストの分析と活用 学校行事 ☆朝や休み時間に外遊びを奨励することで体力向上、仲間とのかかわり、縦割り班活動の充実、学習への意欲（気持ちの切り替え）などの効果 ☆基本的な生活習慣の確立（早寝早起き朝ご飯）、パワーアップ週間 基本的な感染症対策の徹底（手洗い・咳エチケット・ハンカチ）、熱中症対策 ☆食育の推進、望ましい食習慣（バランスの良い食生活・食事のマナー等）歯科指導・講話、食後の歯磨き、食物アレルギーへの対応、食育放送 ☆養護教諭による保健学習の充実、発育測定時の講話、保健だより 薬物乱用防止教室（警察と連携）地域学校保健委員会の開催 ☆自分の心と体を大切にする指導、性犯罪・性暴力対策・性差別意識の解消に関する指導、SOS の出し方に関する指導 ☆毎月の安全指導の徹底、けがの防止、感染症予防、交通安全、災害安全に関する指導、安全マップ・防災マップの作成、施設の安全点検⇒修繕 「自分の命は自分で守る」意識の徹底、防災ノート（防災東京）・SNS東京ノートの活用

4「支援体制」の充実 よりよく生きる子供の人生を支援できる体制を目指して	具体的な方策
○インクルーシブ教育の推進 ○児童相互が多様性を理解し、共に学び生活できる環境・授業づくり（交流及び共同学習・小集団学習） ○ヤシの木学級・ヤシの木特別支援教室の適正な運営と充実 ○支援委員会の運営と対応の充実（配慮を必要とする児童の実態把握、早期の相談、支援等） ○教育相談の充実 （教育相談的手法を生かした指導、SCの活用） ○保育園との連携、体験授業の実施及び中学校との連携強化 	☆ユニバーサルデザインの視点による学習環境づくり・指導（刺激の調整・整理整頓の手立て・活動の見通し・振り返りや評価による意欲付け・教師の話し方・発問・指示 等） ☆ヤシの木学級の授業の充実とニーズに応じた通常の学級との連携及び交流・共同学習の充実（目的を明確にした「交流学級」や「小集団指導」） ☆ヤシの木支援教室の適正な運営と充実 学級担任・学級への支援の充実 個別指導計画・教育支援計画に基づく対応・指導支援引継ぎシートの活用 巡回相談心理士、言語聴覚士等との連携と効果的な指導 ☆配慮を必要とする児童の観察・支援、実態把握、支援委員会で検討⇒対応 巡回相談、言語指導等専門家との連携と日程調整 学期に1回、特支コーディネーターによる障害理解教育の実施 不登校児童・保護者への登校支援・面談 ☆月1回の心の健康アンケート、年間3回の学校生活アンケートの実施と活用による対応の充実 全員面談の実施 早期発見・対応 SCの活用 児童虐待の早期発見と関係機関との連携の充実 ☆保育園との交流学习（学期1回）保育園児の体験授業の実施 中学校体験入学・入学説明会 中学校教員による授業 情報の引継ぎ 支援引継ぎシートの活用、
5「学校・家庭・地域社会」との連携強化 子供の夢をバックアップできる家庭・地域を目指して	具体的な方策
○学校評価を生かした学校経営の充実 ○教育活動の迅速な情報発信と情報共有 （学校だより、学級だより、学校WEBサイト等） ○教育活動の公開 （学校公開、行事、道徳授業地区公開講座等） ○学校間連携教育の推進 （小中一貫、母島小学校との交流、小笠原高校との連携） ○地域教材・人材を活用した教育活動の充実 （小笠原学習）	☆学校評価の実施（保護者・地域アンケート、教職員による自己評価、児童アンケート）、結果説明⇒公表 ☆学校だより（月1回）・学級だより（2週に1回以上） 学校WEBサイト（日々の活動の様子・写真※校外学習、外部講師による授業は必ず。学校行事・集会等の動画配信は必要に応じて） ☆学校公開、行事、セーフティ教室、道徳授業地区公開講座等 音楽朝会（学年発表） 生活科・総合的な学習の時間の発表 等 ☆小中一貫、母島小学校、小笠原中学校、都立小笠原高等学校との連携、父島保育園と活動の交流、体験入学、支援引継ぎシートの活用 等

OPTA・地域行事への参加・協力（地域との交流活動） 	☆小笠原学習の実践、地域の教育力の導入(ゲストティーチャー)、学習成果を発表、発信する機会の設定 学校ボランティア・人材バンク・施設バンクの作成 ☆クラス遊びやノロ落とし、プイフロート撤去、もちつき等への積極的な参加と協力 ☆こどもまつり・返還祭・例大祭・こども相撲・清掃活動 等への積極的な参加と協力 ☆児童の安全確保、基本的生活習慣の育成等に向けた取組についての連携協力の推進（学校運営連絡協議会）
6「学校力・教師力」の向上 子供の未来に貢献できる学校・教師を目指して	具体的な方策
○組織的・計画的・効果的な学校運営（職層を生かした組織運営、報告・連絡・相談・確認の徹底） ○学級担任・副担任によるチームでの学年運営と対応力向上 ○小中一貫教育に向けた取組の充実 ○校内研究の充実と相互授業観察を通じた教員の授業力向上 ○教育効果を高める事務執行（情報管理の徹底、コスト意識） ○働き方改革と健康の維持・増進 	☆各分掌主任を中心とした組織的運営・組織目標・運営計画の活用 分掌の目標達成のための手立ての明確化、報告・連絡・相談・確認の徹底 ☆担任と副担任によるチームでの学年運営（学級運営）・多面的な児童理解 一貫した指導による学年運営の充実 ☆小中一貫教育の充実に向けて「小中一貫教育推進協議会」 9年間を見通した広い視野での指導をめざし、互いに学び合い高め合う集団 ☆校内研究（言語活動）、島しょ研修会、組織的・計画的なOJT推進 多様な教育課題に適切に対応できる力の育成 ☆情報管理の徹底、コスト意識をもった予算執行、適切な施設管理 環境問題への配慮（エコ、節電、節水、ペーパーレス 等） ☆自覚と誇り、法令・服務規律の遵守、信頼関係に基づく毅然とした指導 服務事故防止研修等の実施 不適切な指導を許さない風土の醸成 適切な接遇（時と場に応じた服装・言動、電話対応、来校者対応、時刻・期日の厳守、保護者・地域との適切な距離） ☆職場の環境整備・美化（働きやすい、居心地の良い学校・職場づくり） 定時退勤（週1回以上）、健康診断、メンタルヘルス 校務PCの活用（職員連絡板・職員連絡会・ペーパーレスによる校務 等） SSSへの仕事依頼・活用、副担任と連携した学級事務（提出物・掲示物・作品チェック・記録写真・学級だより作成・印刷 等）